

授業方法について独自に工夫していること 【教育科学系】

幼児教育の具体的なイメージを持てるようにするために、DVDを活用した。

1年生が最初に受ける専門の授業なので、基本的な知識の習得を促した。その方法としては、授業スライド資料と資料を読めば空欄を埋めることのできる確認小テストプリントを同時に配布し、授業ひとまとまりが終わるごとに計6回確認小テストを行い、受講者間で答え合わせを実施した。障害者施設に勤務するゲストティーチャーの講義の際は、グループワーク、質問コーナーなどを設け、主体的・対話的な深い学びにつなげた。知的障害者教育に関わる映像を見せた上で、長時間のグループワーク＋全体発表を行う試みも行っている。

講義ではなるべく多くの印刷物(資料)を用いてどこに必要となる資料があるかを読み取らせている。実習では、実習による測定データを収集するだけでなく、毎回レポートを課して、そのデータの意味や必要となる基準を意識させている。

外部と関わりながら実施している。実社会との関わりは重要なので、その機会をなるべく用意しようと考えている。

- ・いずれの授業科目においても、教員の一方的な講義で終始するのではなく、学生が主体となって授業に参加し、授業内容の理解を深めることができるようにしている。
- ・実習科目については、担当班への事前指導及び資料の作成・授業の運営等を指導し、実践的な指導力を高めるようにしている。

本授業では、文系の学生には慣れない生理学や光学的内容が含まれている。このため、2回に1回は、小テストを行い、その問題と類似したものを定期試験に60%含める旨、学生たちに周知している。また、視力の算出方法等、計算が必要な場合には、電卓の使用を許可するなど、本科目の内容に対する各学生の抵抗感をできるだけ、低くするよう工夫している。

- ・いずれの科目についても最新の医療情報を収集し、常に新しい情報を取り入れた授業内容になるように工夫しました。
- ・救急処置の授業では、学校現場の養護教諭として教職員に心肺蘇生法及びAEDの使用について講習を行う想定で、グループ単位で研修プログラムを作成してロールプレイングを発表し、クラス全体で学びの共有をしました。
- ・臨床実習Ⅱでは、保健医療現場での学びを常に学校現場に置き換え、養護教諭としてどのように活かすかを考察するように指導しました。

前年度担当した「MS Intermediate English」での経験から、本コースの学生の英語に関する基礎学力の欠如を痛感したので、本授業では、基礎学力の底上げを図るべく、単語力の強化と英文法についての知識(特に構文読解力)の強化に努めた。

できるだけ身近な具体例を挙げ、興味を持てるように、また、できるだけ系統だった知識を提供できるよう心がけた。また、なるべく平易な言葉でゆっくり話すようにした。板書は要点のみを簡潔に書くように心がけた。一方通行の授業にならないように、適宜、質問をして理解度を確認し、必要に応じて例題を出して計算をさせ、理解を深めるよう努めた。

できるだけ身近な具体例を挙げ、興味を持てるように心がけた。また、病態生理についても適宜説明した。また、なるべく平易な言葉でゆっくり話すようにした。板書は要点のみを簡潔に書くように心がけた。一方通行の授業にならないように、適宜、質問等を行って理解を深められるよう工夫した。

個別事例を紹介しながら、制度や援助方法の理解を促す様に工夫しました。

聴覚障害教育(特に聾学校)における自立活動の実際に即した授業ないようするために、言語指導・発音指導・聴覚活用・障害認識を柱に授業を構成し、二人で分担した。
また、実際の授業につなげるために、学生それぞれに一人の聴覚障害児の一生を記述させ、それに基づき小学部における「個別の指導計画」を作成させ、そこから「自立活動指導案」をグループで協議し、最後に模擬授業を行うよう流れを作った。

木材加工について、基本的なことから順に学ぶことができ、学んでいく中で難易度の難しいものも、比較的容易に学ぶことができる学習の流れを工夫しています。また何よりも楽しく制作できる教材にも工夫しています。

・この科目は、新規に設けられた専攻科目であり、広範な内容を取扱っております。しかし、他の専攻科目とのつながりが少なく、適切な教科書も乏しい状況であります。
・そのため、スライドを使用し、図表や写真で講義するようにしました。スライドの中で重要なものは印刷体で配布しました。授業のポイントがわかるように、授業中に課題を提示し、レポートを記入するようにしました。レポートはチェックして、次回授業時に返却してフィードバックを図りました。

週1回しか受講学生と顔を合わすことがないため、毎時の導入には、前回の復習や提出されたコメントシートの振り返りを行うことで、前回と本時が可能な限りつながるようにしている。

授業の導入として、高齢者の疑似体験を取り入れました。
高齢者の保健・医療・福祉に関する制度・サービスについて少しでも身近な問題として考えられるよう映像資料を取り入れました。

認知症高齢者とその家族の生活課題をより身近に感じられるよう映像資料を用いました。
介護保険制度の学習は、市民向けに自治体が発行しているパンフレットを活用しました。

・毎回の授業でグループワークを多く取り入れた。話し合いや共同作業による作品作りを通して、保育内容の「表現」について楽しみながら理解できるよう工夫した。
・自由な表現を促し、認め、褒めることを意識した。幼児教育における重要な視点や保育者の姿勢について、教員自ら実践し、学生の理解を促した。
・初等教育学生を対象とした授業であったため、幼児教育と学校教育の比較や小一プロブレムの問題などにも触れることで小学校教員としても役に立つ内容となるよう工夫した。

・将来保育者となったときに必要な音楽的知識と弾き歌いの技術を身につけられるよう、全体での講義と個々の指導を合わせて各回の授業で行った。
・理論の説明では、聴覚をはじめ五感と結びつけて感覚的に理解できるよう工夫した。
・実技指導では、個々のレベルに合わせた課題を設定し、励ますことによって学習意欲を高められるよう工夫した。
・学生が音楽や歌を「楽しい」と感じられるよう、幼児教育における「遊び」と関連づけた授業内容を心がけた。

・保育現場で行われる劇遊びの指導を想定し、劇創作のプロセスについて体験を通して理解できるよう工夫した。
・学生の創意工夫によって、台本作りから演出、音楽、衣装、舞台道具にいたるまで行うことで、学生同士で話し合い、協力して作品作りができるような環境作りを心がけた。

授業コード3403591

保育実習の事前事後指導の授業であるため、できるだけ実践的な内容を実施する。ピアレビューによって相互評価を促す。

授業コード4403481

子どもの保健の中でも特に疾病に関する授業である。知識を定着させることに主眼をおくため、学生自身が調べて発表する機会を多くしている。

【2891011 心理学概論】毎回コメントペーパーを配布し、学生の疑問や質問について、次回の授業で回答している。
【2891021 心理学実験 I】学生が主体的に取り組むことができるよう、グループで実際に心理学実験を体験させ、レポートの書き方やデータ分析の仕方について教育を行った。
【3892311 心理実習 I】学外での実習に向けて、学生が自身で調べる活動を中心にした。また少人数での指導を行い、学生への定着を図った。

授業以外の時間にも学生からの質問や連絡を受けられるように、メールアドレスを公開した。(社会調査演習、心理学概論)
授業の内容を振り返って整理するために、毎回の授業の終わりにリアクションペーパーを学生に配布し、授業の感想や授業における疑問点を記入してもらった。(社会調査演習、心理学概論)
資料配布において、印刷物だけでなくPDFファイルも利用した。それにより、印刷物では見にくくなってしまような資料を見やすくすることができ、また多くの資料を配布することができた。(社会調査演習)
授業で紹介した内容について、教室内で実際に体験することが可能な場合はできる限り学生に体験させるようにした。(心理学概論)

・幼児教育史の内容を単に過去の知識としてのみ学ぶのではなく、現在の教育内容・幼稚園教育要領等の改訂の内容と比較、整理して学ぶことができるようにする。
・実際の子どもの姿・保育の様子を通して、上記の視点について具体的に捉え考えられるよう努めた。

パワーポイントを利用した授業が多くある中、将来保育者として「クラスだより」や「お帳面」を手書きで書くスキルがもとめられることを想定して、あえてホワイトボードでの板書を行っている。
手書きの温かみ、書く習慣、わかりやすくまとめる要領を習得、実感できること目的としている。

毎回、学生が能動的に授業参加する内容で構成する

講義、小課題、グループワークを織り交ぜて、学生が退屈しないように工夫した。

具体的な例をあげて、学生の興味を引くようにした。

MS Intermediate English 1については語学が中心なのでコースブックを使っているが、MS World Education 1についてはビデオ、新聞などを用いて世界各国の教育についての情報や現状を理解できるような授業を心がけている。語学は重要だが最も重要なのは内容だと思う。

単なる講義ではなく、体験(疑似体験)を取り入れることで実感できるようにしている。
安城市のサルビア祭りで、障害児たちと楽しく遊びのコーナーを持てるようにしている。(授業と自治体の催しとの協同)

学生が主体的に学習できるようグループワークを中心に行い、振り返りから新しい気づきが得られるよう工夫している。

法令・制度など学生にとって難しく感じる内容を多く扱うため、映像資料などを活用して、社会の問題を身近に考えることができるように工夫している。また、コメントシートを毎時間記入することとしており、次の授業で質問や意見を紹介することで、多人数の講義において学生の参加を促し、相互的な授業になるようにしている。

幼児の思考や行動を具体的にイメージとして理解しやすくするために、幼児の活動する動画を使って説明したり、幼児のエピソードで語られる資料を基に説明するよう心掛けた。

- ・休み時間に、ホワイトボードに、本時の目標、90分の授業展開を書いて、見通しが持てるようにする。
- ・講義に関連した話題や時事ネタを「今日のコラム」というかたちで配布し、受講者が感想を次回までに書いてきて提出し、それにコメントを付けて返したり、必要に応じて関連したスライドを作成したりするようにしている。
- ・実際の教育現場での実践映像(自身の教員時代の映像:保護者の許可を得ている)を使って特別支援学校での指導のイメージを持てるようにしている。
- ・学内外の人材を活用している(例えば、学習指導要領に関連する話題で太田部長にお話いただいた)。
- ・授業後に必ず「いいねカード」(なるほど・分かった／もっと知りたい／もっとこうしたらいいね:授業の改善点)を記入するようにしてもらい、次回の授業の冒頭で「もっと知りたい」とい内容を深めたり、受講者全員で共有したりするようにしている。必要に応じて、コメントを記入するようにもしている。

学生は、臨床心理学についての授業はたくさん受講してきているため、地域支援・保護者支援を一つの柱とした。